

平成20年10月14日

研究者 各位

学校法人 昭和大学
理事長 小口 勝 司

昭 和 大 学
学長 細山田 明 義

「研究活動における不正防止ガイドライン」の制定について（通知）

今般、標記ガイドラインを別紙のとおり制定しましたので、通知致します。

このガイドラインは、昭和大学における科学研究が、信頼性と公正を欠くことのないよう、研究を遂行する上で求められる研究者の倫理指針を定めたものであります。本学の研究者（大学院学生を含む）一人一人が、このガイドラインに掲げられた倫理指針を理解し、個人情報保護等倫理意識の更なる向上と研究の責任ある遂行、並びに研究活動における不正行為の防止に向けて努力されることを、強く望みます。

研究活動における不正防止ガイドライン

平成20年 9月 1日 学部長会承認
平成20年10月 14日 制定・施行

本ガイドラインは、昭和大学（以下「本学」という。）における科学研究が、信頼性と公正を欠くことのないよう、研究を遂行する上で求められる研究者の行動と姿勢の倫理的指針を定めるものである。

I はじめに

本学は、生命科学の進歩と文化の発展に貢献することを使命として、医系総合大学の特長を活かし、次の時代を拓く先端的かつ独創的な研究を進めることを基本理念としている。その研究活動は、先駆者が行った研究の幾多の業績を踏まえた上で、実験・考察等によって知り得た事実やデータを素材としながら、研究者自身の視点、解析、省察等に基づいた新たな知見を創造し、知の体系を構築していく知的営みである。これらの活動が人類共通の知的資産として健全に構築されていくには、科学研究に携わる全ての者が科学の健全な発展を促す責任を持ち、また自らを律する厳しい姿勢が求められることは自明である。

近年、知をめぐる環境の大きな変化とともに、外部研究資金を獲得する激しい競争の中で、論文等のデータ捏造・改ざんなどの研究上の不正行為が国内外の研究機関で続発し、社会問題化するに至っている。不正行為は、研究者倫理に背く、科学そのものに対する背信行為であり、また、科学に対する社会の信頼を裏切り、学術研究の発展を著しく阻害するものであることから、絶対に許されることではない。法令等を遵守し、高い倫理性をもって真摯に研究活動を行うことは、本学が社会に対し負っている責務の一つでもある。

本ガイドラインが、日々研究が行われている研究室等において機会あるごとに周知され、全ての研究者（大学院学生を含む。以下同じ。）の倫理意識の向上と研究の責任ある遂行、並びに研究活動における不正行為の防止に役立つことを期待する。

II 研究者の倫理指針

（研究者の責任）

- 1 研究者は、科学の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、研究の実施にあたっては、自らの研究が人間、社会、環境に及ぼす影響や起こり得る変化を広い視野からできる限り察知し、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。

（人間の尊厳の尊重）

- 2 研究者は、本学の定める「生命倫理憲章」に則り、生命への畏敬の念を持ち、人間の尊厳を重んじ、基本的人権を尊重しなければならない。研究にあたっては、研究への協力者に対し、十分なインフォームド・コンセント及び個人情報の保護に努めるなど、協力者の人格、人権を尊重した行動をとらなければならない。また、実験動物などに対しては、動物福祉に配慮し真摯な態度でこれを扱う。

(研究倫理の習得)

- 3 研究者は、科学研究に伴う倫理的責任を果たすために、研究倫理の習得に努めなければならない。とりわけ、人間を対象とする医学研究を行う者は、研究協力者への倫理的配慮を行うことが義務であることから、法令やガイドラインや学内の関係規程を熟知し、倫理審査委員会への審査申請等の公正な手続きを経て研究を遂行しなければならない。

(説明責任)

- 4 研究者は、社会に対し、科学研究によって生み出される知の正確さや正当性を、客観性や実証性をもって示す最善の努力をするとともに、研究者コミュニティに対し、研究活動の透明性を担保することに高い倫理観をもって努める責任を有する。

(資料・情報・データ等の管理)

- 5 研究者は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、研究環境の質的向上に積極的に取り組む。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、研究成果の客観性を歪めることがあってはならないことは勿論、研究のために収集又は生成した資料、情報、データ等の滅失、漏洩、改ざん等を防ぐために適切な措置を講じるとともに、これを適切な期間、保存するものとする。

(研究成果発表の規準)

- 6 研究者は、研究成果発表における不正行為が、新たな知見を創造していく知的営みである科学そのものに対する背信であり、大学及び研究者に対する社会の信頼性を失う行為であることに鑑み、他研究者の成果を自己の成果として発表してはならない。また、研究成果の発表に際しては、先行研究を精査し尊重するとともに、他研究者の知的財産を侵害してはならない。
- 7 研究者は、次に掲げる不正行為を絶対行ってはならない。
 - (1) 捏造：存在しないデータの作成。データ、研究成果等を偽造して、これを記録し、又は報告もしくは論文等に利用すること。
 - (2) 改ざん：データの変造、偽造。研究資料・機器・過程を意図的に変更する操作、もしくは虚偽記載を行い、これにより変更したデータ、結果等を用いて研究の報告、論文等を作成し、又は発表すること。
 - (3) 盗用：他研究者のデータや研究成果等を適切な引用なしで使用。他研究者の研究計画のアイデア、研究過程、研究成果、論文又は用語を適切に引用せず、又は適切な表示をせずに使用すること。

※これら以外でも、研究論文に著者としての資格を有しない者を挙げる事、又は著者としての資格を有する者を著者リストから除外することや、同一内容の研究論文を重複発表する、研究協力者への倫理的配慮を欠くなど、明らかに研究活動上の不正行為と認められる行為を除外するものではない。

- 8 研究者は、次に掲げる各事項を遵守しなければならない。
- (1) 不正行為をしてはならないこと。
 - (2) 不正行為に加担してはならないこと。
 - (3) 第三者に対して不正行為をさせてはならないこと。
 - (4) 不正行為が行われようとしていることを知った時に、それを防止するよう努めること。

(法令遵守)

- 9 研究者は、研究の実施、研究費の使用等にあたっては、法令やガイドライン、学内の関係規程を遵守し、研究装置・機器等及び薬品・材料等の使用に際しても、関係取扱規程等を遵守して、安全や環境に対し責任を持った取組みを行わなければならない。

(差別の排除)

- 10 研究者は、研究・教育・学会活動において、人種、性、地位、思想・宗教などによって個人を差別せず、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重する。

(個人情報保護)

- 11 研究者は、プライバシーの尊重と個人情報保護の重要性に鑑み、研究のために収集した資料、情報、データ等のうち個人を特定できるものは、これを匿名化した上で研究するなど保護を徹底するとともに、学外に個人情報を持ち出さない。また、本人の了解なく、これを他に漏らさない。

(利益相反)

- 12 研究者は、自らの研究、審査、評価、判断などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。

(研究上の不正行為等への対応)

- 13 捏造、改ざん、盗用などの不正行為の疑義への基本的対応は次のとおりとする。
- (1) 不正行為などの疑義の申し立てや相談を受け付ける窓口を設ける。
 - (2) 受付内容を公正に精査する。誣告の場合には受け付けない。
 - (3) 申立人に将来にわたって不利益が及ばないよう、十分に配慮する。
 - (4) 不正行為などの疑義があった場合には、定められた制度に沿って迅速に事実の究明に努め、必要な対応を公正に行い、その結果を公表する。特に、データの捏造、改ざん、盗用には、厳正に対処する。
 - (5) 研究の実施、研究費の使用等にあたっては、研究倫理教育のための必要な措置を講じ、法令やガイドラインや学内の関係規程を遵守するよう周知徹底する。また、利益相反に適切に対応できるルールを整備する。

Ⅲ 研究指導者の留意事項

研究の指導的立場にある者は、次のことに留意しなければならない。

- 1 科学研究は人類の健康と福祉に多大な貢献をするが、その安易な技術応用が生命倫理、地球環境の汚染、公害等諸問題を惹き起こしたことなどの事実があることを自覚し、指導にあたる。
- 2 研究の指導的立場にある者は、研究者一人ひとりが、その自発性と独創性に基づいて自由な研究を遂行できるよう、ハラスメント防止対策等を含め、公正な研究環境の整備に努めなければならない。
- 3 遺伝子治療臨床研究、ヒト幹細胞臨床研究、その他の介入的臨床研究や、ヒトゲノム遺伝子解析、遺伝子組み換え実験及び動物実験等の研究計画を立案・実施するにあたっては、生命倫理に関する法令やガイドライン、学内の関係規程を遵守し、十分な知識をもって安全確保に努めるよう、研究者を指導する。
- 4 研究の指導的立場にある者は、研究者が研究活動を行う上で個人情報収集する場合、その内容と必要性について事前に説明を受け、倫理審査委員会の指針、ガイドライン等に沿い、適正に指導する。また、取得した個人情報によりコンピュータ上で研究データを作成するときに、外部からのアクセスにより個人情報が漏洩しないよう、符号表の取扱いその他を日常的に指導し監督する。
- 5 実験・観察ノート等の作成、使用データや関連データの保管の徹底は、自らの研究に不正行為がないことを説明できるものであることから、これを適切に管理することを研究者に周知指導する。電子媒体でデータを保管する場合には、実験条件や実験日などに注意を払い、研究記録にもその所在を明記するなど、研究の客観性を確保するよう指導する。
- 6 研究者の論文に誤りがあることに後で気がついた場合は、速やかに論文を取り下げる措置を取るなど、誠実に対応するよう指導する。
- 7 研究発表に際しては、他の研究者の発表結果や未発表データを適切なプロセスを踏まず、かつ引用もせずに記述することは、暗黙にオリジナルであるかのように受け取られ、盗用と判断されるので、適切な引用に十分注意を払うよう指導する。
- 8 研究の指導的立場にある者は、自ら率先して本ガイドラインを遵守し、研究者、学生の指導にあたるよう、深く認識し行動しなければならない。

以上